



野川の桜並木

case
02

調布市(東京都)

未来に続く、緑と水あふれる ほっとするまち 調布

連携と協働によるより良い環境の保全と回復に向けた取組

調布市では、このような貴重な環境資源を守り維持していくために、「持続可能な人間社会の存続とすべての生きものが共存する地球、地域環境を保全・回復・創出する」という基本理念の下、「未来に続く、緑と水あふれるほっとするまち 調布」を目指す環境の将来像として掲げ、様々な施策を推進しています。

このような地形からなる調布市は、多摩川や野川などの水辺、国分寺崖線や布田崖線、仙川崖線、深大寺周辺の社寺林や屋敷林、湧水や水田等、豊かな水と緑の環境に恵まれています。崖線の崖下からは地下水が豊富に湧き出し、市内の中央部を貫流する野川や、東部を流れる野川支流の入間川、仙川の主な水源となっています。

調布市は、東京都のほぼ中央、多摩地区の南東部に位置しています。広大な武蔵野台地の南縁にある調布市は、多摩川によって形成された武蔵野段丘と立川段丘の2つの段丘と沖積低地からなります。



計画の概要

調布市環境基本計画

これまでの取組

1990 | 2000 | 2010 | 2020

- 1995.3 「調布市環境基本条例」制定
「調布市環境管理計画」策定
- 2006.3 「調布市環境基本計画」策定
- 2013.4 「調布市総合計画（平成25年度から令和4年度）」策定
- 2016.3 「調布市環境基本計画」改定
- 2020.4 「調布市環境基本計画等改定委員会」設置
- 2021.3 「調布市環境基本計画」改定
- 2021.7 「調布市環境基本計画」の一部を流域水循環計画として公表

調布市では、2016年3月に、環境保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「未来に続く、緑と水あふれるほっとするまち調布」を将来像とする「調布市環境基本計画」が策定されました。

この計画に基づき、これまで、「豊かな緑と水や多様な生物を育むまち」、「人と環境が調和する快適で美しいまち」、「安心して暮らせる生活環境が確保されるまち」、「低炭素で循環型の社会の形成を目指し実現するまち」、「みんなの力でより良い環境を目指すまち」の5つの基本目標に沿って様々な施策が進められてきました。

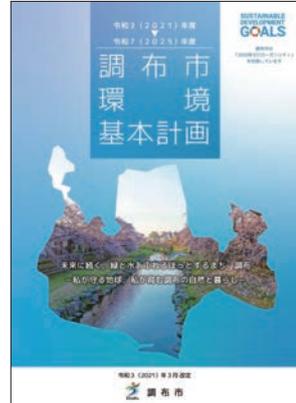
2021年3月には、その後の環境行政をめぐる社会情勢の変化等を踏まえて計画の改定が行われました。引き続き、基本理念や基本目標を踏襲しつつ、目標ごとに施策の方針や具体的な施策が体系化されています。また、今回の改定では、次代を担う小・中学生に、計画の内容を知ってもらうため「こども版調布市環境基本計画」も発行しています。更に今回改定された「調布市環境基本計画」の一部が、新たに「流域水循環計画」として公表されました。

市が目指す環境の姿と基本目標

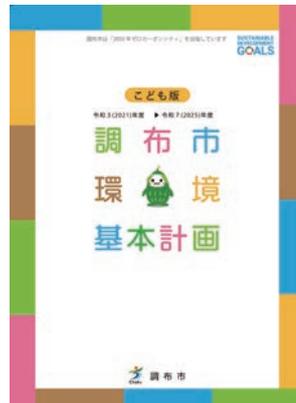
環境は長い歳月をかけて育むべきものであり、より良い環境の保全と回復に向け、取組を長期的な視点を持って推進していく必要があります。
このことにより、本計画では、計画の前期の基本理念や将来像を踏襲し、次のとおりとします。

基本理念	持続可能な人間社会の存続とすべての生きものが共存する地球、地域環境を保全・回復・創出する		
目指す環境の将来像	未来に続く、緑と水あふれるほっとするまち 調布 —私が守る地球、私が育む調布の自然と暮らし—		
基本目標	施策の方針	施策	重点プロジェクト
1 豊かな緑と水や多様な生物を育むまち	1-(1) 緑と水の保全・再生	1-1-1 緑の保全	① 市民の心の安らぎ 緑と水を守る プロジェクト
		1-1-2 水循環の回復と水環境の再生	
		1-1-3 都市農地や里山環境の維持・保全	
	1-(2) 生物多様性の保全・活用	1-2-1 生物の生息空間の保全	
		1-2-2 多様な自然環境の活用	
		1-2-3 都市美化の推進	
2 人と環境が調和する 快適で美しいまち	2-(1) 美しい街並みの形成	2-1-1 景観形成の推進	② みんなで目指す 環境先導都市 プロジェクト
		2-1-2 歴史・文化環境の保全・継承	
	2-(2) 快適な空間の確保	2-2-1 まちのうらおいの創出	
		2-2-2 都市美化の推進	
3 安心して暮らせる 生活環境が 確保されるまち	3-(1) 公害のない 環境の維持	3-1-1 大気汚染の防止	③ みんなが主役 環境を学んで 楽しむ プロジェクト
		3-1-2 水質汚濁の防止	
		3-1-3 騒音・振動の発生抑制	
		3-1-4 化学物質等の対策の推進	
4 脱炭素で 循環型の社会を 目指すまち	4-(1) 脱炭素化に向けた まちづくりの推進	4-1-1 脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルの普及	② みんなで目指す 環境先導都市 プロジェクト
		4-1-2 再生可能エネルギー等の利用推進	
		4-1-3 スマートシティの実現	
		4-1-4 気候変動への適応	
	4-(2) 循環型まちづくりの推進	4-2-1 3Rの推進によるごみの減量	
		4-2-2 ごみの適正処理	
5 みんなの力で より良い環境を 目指すまち	5-(1) 環境教育・環境学習の推進	5-1-1 環境意識の醸成	③ みんなが主役 環境を学んで 楽しむ プロジェクト
		5-1-2 学びと活動体験機会の充実	
	5-(2) 連携・協働による 環境保全活動の推進	5-2-1 活動の担い手となる人材育成と活動支援	
		5-2-2 様々な主体と活動の場の拡大	

市が目指す環境の姿と基本目標



調布市環境基本計画



こども版環境基本計画

流域マネジメント、ここが「鍵」

「鍵」その1 環境保全活動を通じた 人材育成

調布市では、環境保全活動に参加する人材、活動をリードする人材を育成するとともに、市民、事業者、環境活動団体等の取組を支援することにより、環境保全活動の連携・協働を推進しています。

人材育成に関しては、市民・市民団体・事業者で構成される「ちようふ環境市民会議」が中心となり、「雑木林ボランティア講座」をはじめとする各種環境講座、「がいせんウォーク」、環境活動の交流会などのイベントが開催されています。また、「多摩川自然情報館」では、環境学習イベントやボランティア解説員養成講座等を開催するなど、様々な主体が協力して市民の普



雑木林ボランティア講座

及啓発、担い手育成を進めています。

市民の環境保全活動への参加については、調布市では、2000年から市民との協働で崖線の保全活動を行ってしています。2020年10月時点では、市内7箇所の崖線樹林地において、市民団体が樹木の保全や管理等の活動に取り組んでいます。また、小・中学生が河川や緑地などでの自然体験を通じて環境を学ぶ「調布こどもエコクラブ事業」や市民と市が協働で市内の自然環境を見守り、自然環境の保全に役立てる「調布市環境モニター事業」の運営をボランティアサポーターが支援しています。このほか、河川の保全、再生可能エネルギーの普及、環境学習活動、清掃活動等の取組を行っている市民団体も複数存在します。



こどもエコクラブ

「鍵」その2 次代を担う子供達を 対象とした 環境学習の推進

調布市では、豊かな自然環境に関する情報を市民に提供するために、「環境年次報告書」、「ちようふ環境にゆくす」の発行や、市ホームページやSNS等を通じて、情報発信に積極的に取り組んでいます。

また、「ちようふ環境市民会議」と連携して「調布がいせんウォーク」を開催するなど、市民が身近な自然環境を知ることのできる機会の提供も行っています。

さらに、環境に関心を持った市民と環境活動団体をつなぎ、担い手となる市民を増やしていくため、環境活動団体等と協力しながら、拠点施設の設置や環境学習に取り組んでいます。

拠点施設となる調布市の「多摩川自然情報館」は、多摩川を中心とした市内の自然環境を紹介する施設で、館内には多摩川の魚や植物、昆虫などの実物が見られる展示室や、多摩川のミニ生態系を再現したいきものプール、自然環境に関する本をそろえた学習室があり、子どもから大人まで楽しく学べるようになっています。

環境学習に関する取組については、次代を担う小・中学生に、身近な自然や地球温暖化問題について関心を持ち、自ら解決に向けた行動につな

げてもらうため、湧水・樹林地等における自然観察会、「調布水辺の楽校」、「調布こどもエコクラブ」などが開催されています。また、市内の身近な水辺環境や深大寺・佐須地域等の自然資源を環境学習等に活用する取組として、自然環境マップの作成・配布や深大寺・佐須地域における農の風景を紹介するパンフレット等の作成が行われています。

このほか、市内の自然環境の再発見と、生物多様性への理解を深める目的で、「調布市いきものフォトコンテスト感じようー生物多様性」が2010年度から毎年開催されています。



「調布水辺の楽校」の様子



深大寺・佐須地域の公有化
土地を活用した環境学習



「調布市多摩川自然情報館」
内のいきものプール

ちょうふ環境にゆ〜す
未来へつなぐ調布の環境
2021年9月 第44号
発行物誌発行部
2021-113

〒 111-8531 東京都調布市南町三丁目1番1号
TEL 042-481-7506(直通) FAX 042-481-7550
Eメール kankyoju@w2.city.chofu.tokyo.jp

「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて
調布市と調布市商工会は、2050年までに二酸化炭素の排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて共同で宣言を行いました

9. そこにある「気候変動」→地球温暖化の深刻化→地球温暖化の進行により、世界の平均気温は産業革命前（工業化前）と比較して、約1.2℃上昇しました。気候の「気候変動」に関する国際協定（パリ協定）第1作業部会は、令和3年8月9日に、「気候が世界の地球温暖化対策を講じて、世界の平均気温の上昇が今後約20年で産業革命前分比で1.5℃以下に達する」と最終した報告書を公表しました。対策を講じないシナリオでは、2081～2100年に気温の上昇幅が4℃に達し、熱帯化の恐れがあるとして、います。一方、世界全体で2050年頃にカーボンニュートラル（温室効果ガス排出の実質ゼロ）を達成するシナリオでは、今後世界中の気温の上昇幅は約1.4℃にとどまると見込まれています。

地球温暖化の影響は、記録的猛暑や豪雨、大型台風、山火事、水不足の深刻化、農作物増産など、これまで経験したことのない自然災害を発生させる恐れをもたらし、世界中で被害を拡大しています。私たちは、新型コロナウイルスとの戦いを乗り越えていくことに加え、気候変動対策も急務として認識し、立ち向かう行動を速やかに進めていかなければなりません。

この宣言は調布市商工会の賛同と調布市は調布市の大半は商業利用に居住者も少なく、この10年が分水嶺となると見られています。この危機感のもとでも取り組んでいくため、市は市議会と共同で2050年までに二酸化炭素の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言しました。

地球温暖化は、決して他人事ではありません。一人一人の行動が積み重なって大きな力になります。一緒に取り組んでいきたいと思います。

調布市ゼロカーボンシティ宣言

「気候変動」は、二酸化炭素（CO2）などの温室効果ガスによる地球温暖化による自然災害、森林などの生態系による自然災害の発生を招く恐れがあります。

調布市ホームページ
0100市民生活課

ちょうふ環境にゆ〜す

流域マネジメント、ここにも「注目」

注目！ 湧水や湿地等の保全と回復

崖線下から湧き出す地下水は、市内の中央部を貫流する野川や、東部を流れる野川支流の入間川等の主な水源となっています。しかし、近年都市化が進み、2018年度の湧水調査では、市内に29か所の湧水が確認されていますが、湧水は減少していく傾向にあります。

調布市では、東京都の「雨水浸透指針」や「調布市自然環境の保全等に関する条例」に基づいて、緑の保全、健全な水循環の維持・回復、地下水・湧水の保全・回復に取り組んでいます。条例では、湧水、湿地、池、水路、河川等が生き物の生存にとって欠か

雨水浸透ます設置の啓発チラシ



湧水の紹介看板

すことのできないものであることに配慮して、これらの保全及び回復を図るために必要な措置を講ずることとしています。

具体的には、公共施設において、雨水浸透ます・浸透トレンチ等の設置や道路等への透水性舗装採用等により、地下水の涵養が積極的に進められています。また、民間施設においても雨水浸透施設等の設置が行われています。1997年には「調布市雨水浸透ます設置要綱」が定められ、既存住宅への雨水浸透ますの設置促進も図られています。なお、雨水浸透施設等の設置に当たっては、国土交通省や東京都の補助金を活用しています。

また、健全な水循環の維持・回復のためには、市民や事業者も含め流域全体が連携して取り組んでいくことが必要です。このため、雨水浸透や節水等の取組の重要性について普及啓発も図っています。

流域マネジメント、ここにも「注目」

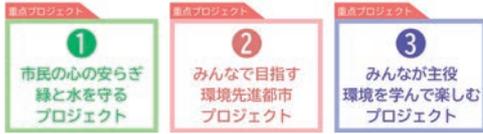
注目2 重点プロジェクトの選定

調布市では、環境基本計画で掲げた環境の将来像を実現するため、計画期間内に重点的に取り組む事業を重点プロジェクトとして位置付け、計画的かつ効率的に推進していくこととしています。

重点プロジェクトのうち、「市民の心の安らぎ 緑と水を守るプロジェクト」は、「緑の保全」、「水循環の回復と水環境の再生」、「都市農地や里山環境の維持・保全」、「生物の生息空間の保全」の4つを主要な施策としており、主にこの施策に基づき、健全な水循環の維持・回復、水環境の再生の取組が行われています。

<重点プロジェクトの選定基準>

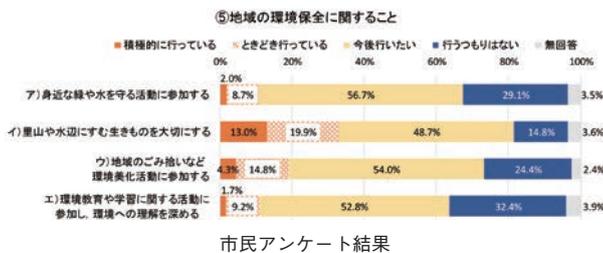
- 1 時代背景を踏まえ、緊急性があり、かつ、優先的な取組が必要である事業
- 2 市民から強く求められている事業（社会的な要請が強い事業）
- 3 事業効果が高い事業
- 4 市民・市民団体・事業者・市の連携・協働により推進される事業



重点プロジェクト

重点プロジェクト	① 市民の心の安らぎ 緑と水を守るプロジェクト	② みんなで目指す 環境先進都市プロジェクト	③ みんなが主役 環境を学んで楽しむプロジェクト
基本目標1	●●●●●	●●●●●	●●●●●
基本目標2	●●●●●	●●●●●	●●●●●
基本目標3	●●●●●	●●●●●	●●●●●
基本目標4	●●●●●	●●●●●	●●●●●
基本目標5	●●●●●	●●●●●	●●●●●

重点プロジェクトの構成



市民アンケート結果

注目3 市民アンケート・市民ワークショップ

調布市では、環境基本計画の改定にあたり、今後の環境に関する取組について市民の意見・アイデアを幅広く反映するため、2019年度に「調布市環境基本計画の見直し等に関する市民アンケート調査」や「市民ワークショップ」を実施しました。

また、2020年度には、メール等でのアイデア募集、対面型ワークショップ、オンライン座談会を開催しました。

アンケート調査では、里山や水辺にすむ生きものを大切にすることを意識している人の割合は3割程度いるものの、身近な緑と水を守る活動に参加していると回答した割合は1割程度と低い状況でした。また、直近1年以内に環境活動に参加したことのある人の割合は1割にとどまっているものの、関心を持っていて人が半数近くいることが明らかになりました。参加者を増やすために活動を気軽に体験できる機会や活動に関する情報発信を増やすことが求められています。

市民アンケートや市民ワークショップなどで出された数多くの意見を集約した結果、複数のテーマに共通して、「環境について子どもや若者が学ぶ機会、親子で体験できる機会の充実」、「様々な媒体を用いた市内の環境や環境活動に関する効果的な情報発信」、「相互に関連し合う環境問題を効果的に、かつ楽しみながら学ぶ場の提供」といった環境学習・環境教育に関わる視点から、多くの具体的なアイデアが出されました。これらのアイデアは各重点プロジェクトを進めていく取組の中に反映されています。

活動の果効

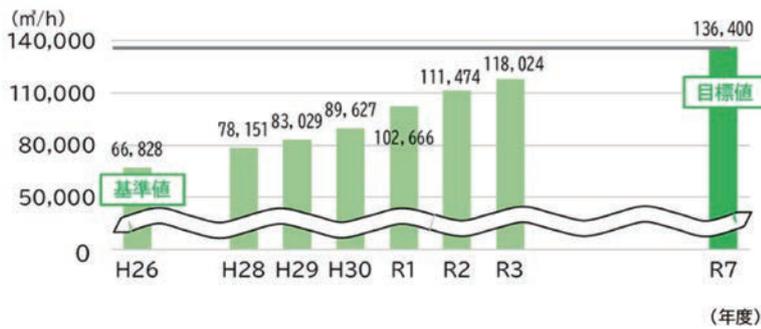
環境指標と
目標値による
目標達成度の把握・
評価

環境基本計画に基づく取組の進捗状況については、環境指標とその目標値に照らして目標達成度を把握・評価しています。評価結果は年1回、年次報告書として取りまとめられ、公表されています。

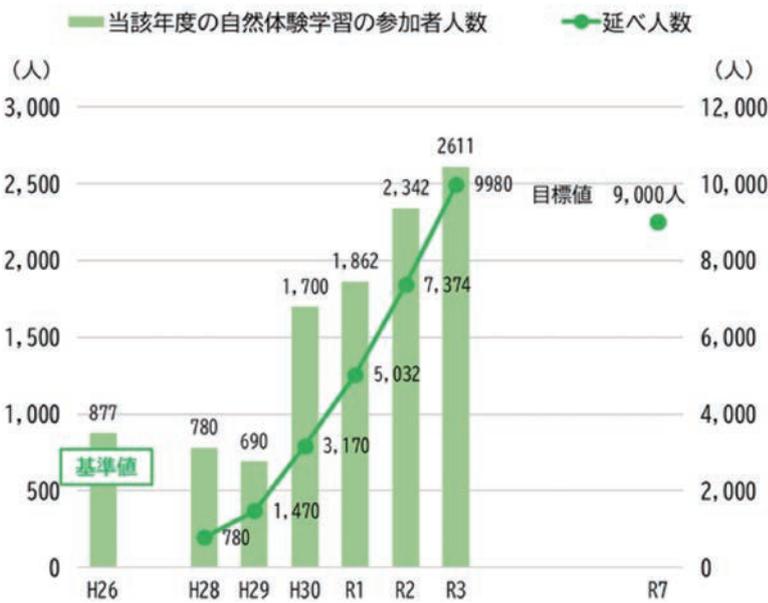
その中で、水循環にかかわる施策としては「水辺環境の保全・再生」、「多様な自然環境の活用」、「活動の担い手となる人材育成と活動支援」等があります。



実篤公園の湧水



浸透施設等の設置による雨水の浸透能力



自然体験学習の参加者人数

目標達成度

「水辺環境の保全・再生」に関する施策では、「浸透施設等の設置による雨水の浸透能力」が環境指標として設定され、令和7年までに達成する目標値として、136,400立方メートル/時間が定められており、令和3年度時点では118,024立方メートル/時間と順調に増加しています。

「多様な自然環境の活用」に関する施策では、「自然体験学習の参加人数」として9,000人が環境目標として設定されており、令和3年度では9,980人と増加しています。今後も参加人数を増やしていくために、市ホームページなどを活用し広報活動に努めていく予定です。

「活動の担い手となる人材育成と活動支援」に関する施策は「活動の担い手となる人材の人数」として環境目標が170人として設定しており、引き続き環境の担い手づくりのための環境講座や、ボランティア解説員養成講座等を実施することにより、次世代に向けた担い手を拡大していく予定です。

いずれの施策でも令和7年度の目標年次に向け、活動の効果が拡大しており、引き続き事業の推進を図っていきます。